



# 「俺たちの時には」ではダメ



『過去の自慢話をタダで聞いてもらうコツ、若手に毛嫌いされる自慢話』という新聞のコラム記事に・・・俺はこうやって成功したから、試しにやってみたら』などと過去の自慢話は、とにかく若い世代のウケがめっちゃくちや悪い。自慢話をすることはプライドを取り戻そうとするのです。下ネタと比べたら、だいぶマシだとは思いますが、タダで聞いてもらうにはコツがあるらしい・・・。を読んで、私たちも職場の組合員より少しだけ先輩になり、仲間との学習会や討論の場で、自慢話をする気持ちはまったくありませんが、知らず知らずのうちに「俺たちの時にはこうやった」などの発言をしていたことに、ハッとすると同時に反省をしました。

私たちが職場に居た時に比べて、労働組合の力量は大きく低下し、労資の力関係は無惨な姿に変化をして、

会社のやりたい放題で合理化が進められ、職場ではモノが言えない状況が作られている常態になっています。そうした職場情勢で「俺たちの時には・・・」では、考えてみれば言われた側が気の毒に思えて、自分自身が恥ずかしくなりました。

先輩である私たちが気持ちを入替え、相談をしたい、話を聞いてもらいたいと思われる、先輩になることが必要です。年齢を重ねることが悪いことばかりではありません。それだけ多くの経験と知識を持つことになり、問題はその経験や知識をどう活かすかが、私たち先輩が問われているのだと思います。

労働大学企画編集委員 **佐久間 和俊**